



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油・ガス関連ほか（2月18日～27日）

1. パキスタン・インド向けガス・パイプライン（18日付シャルグ紙）

石油省のトルカーン次官は、「ピース・パイプライン」と称されるイランからパキスタンおよびインド向けのガス・パイプラインについて言及し、「当初の計画では、日量1億立方メートルのガスのうち、パキスタンおよびインド向け輸出分として8,000万立方メートル、イラン国内需要向けに2,000万立方メートルが供給される見通しであった。国際的な陰謀により、IPIパイプラインの代替案が提案されている。しかし、イランの巨大な潜在性を考慮すれば、両国はこのピース・パイプライン計画を実行することとなろう」と述べた。

2. 外貨に関するイラン国営石油化学会社総裁の発言（20日付ジヨムフォーリーエ・エスラーミー紙）

イラン国営石油化学会社（NPC）のバヤート総裁は、「為替センターは、自らが受け取った外貨額を公表していない。NPCが得た外貨は主に、外国為替や外為ローンの返済に充てられている。また、得た外貨の一部は、スペアパーツや触媒等の購入資金に、これらの支払い残額は原材料費に充当される。幸いなことに、我々の設備の主要部分は、バーター取引で供給されている。

3. 中国によるイラン産原油輸入量（27日付ジヨムフォーリーエ・エスラーミー紙）

2013年1月の中国によるイラン産原油輸入量は、日量約31万バレルであり、前月（2012年12月）の日量59万3,000バレルから47%減少した。また前年同期比（2012年1月：日量49万バレル）比では36%減となっている。

4. ピスタチオの禁輸措置の解除（16日付ドンヤーエ・エグテサード紙）

貿易推進機構のケルマーンシャーヒ次官は、ピスタチオの禁輸措置を解除したと発表した。「イランと米国がピスタチオの主な供給国であるが、今回の措置を続けると米国に市場を奪われる恐れがあるため」としている。イランは、年間15～20万トンのピスタチオを輸出してきたが、今回の措置は国内の価格高騰を防ぐために行われた措置である。また、国内で販売される金額は1キロあたり50万リヤール（公定レートで約40米ドル）であるのに対し、輸出向けでは8.2米ドルで販売されている。

5. P5+1 との協議における貴金属輸出禁止措置解除の提案（16 日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

P5+1 の各国は、26 日からカザフスタンのアルマトゥイで始まるイランとの核協議において、フォルド濃縮施設の閉鎖を条件に、イランに対する金および貴金属輸出を禁じる制裁の解除を提案すると、西側の関係者が述べた。

6. 経済専門家による大統領宛て書簡（23 日付シャルグ紙）

ある経済専門家は、43 人の経済専門家が大統領宛てに送付した書簡について、「イランが過去 100 年間で手に入れてきた石油収入のうち、50%はこの 8 年間で積み上がったものである。そのため、第 9 および第 10 期政権は、この稀に見る多額の収入を用いて、イラン経済からスタグフレーション（不況であるにもかかわらず物価が上昇し続ける状態）を取り除く必要があった。書簡に署名した経済専門家らは、経済問題や政治問題、国際関係が大統領選挙後に解決・回復されることを望んでいる」と発言した。

7. ピスタチオや玉ねぎの輸出禁止措置（23 日付ハムシャフリー紙）

ピスタチオや玉ねぎに科されているイランからの輸出禁止措置は、これらの小売価格を押し上げており、輸出禁止措置が価格上昇に歯止めをかける効果は見受けられない。現在、玉ねぎは 1 キログラム当たり 1 万 8,000～2 万 7,000 リヤールで推移している。